



# 生活科・総合的な学習の時間の実践

## “本気”のための

### 「課題の設定」過程の工夫

#### ①体験活動の重視

学習対象と直接かかわることは、児童の知的好奇心や感情に働きかけ、対象への関心や活動への意欲を高めたり、課題の発見に繋がる気付きや疑問をもたせたりすることができる。五感を働かせた直接体験により、学習対象を身近に捉えたり、課題を自分事として捉えたりさせ、活動意欲を高める。

#### ②イメージや知識、思い等とのずれや隔たりがある事実を提示する

児童がもっているイメージや知識、思い等とずれや隔たりのある驚きの事実を提示することにより、「なぜ?」「～しなければ」といった課題意識を高めることができる。

#### ③あこがれや可能性を抱く人・もの・こととの出会い

地域の伝統やそれに携わる人など「自分も深くかかわりたい」「その人のようになりたい」と感じる人・もの・ことに出合わせ、それらの良さや価値を実感させることにより、自己の目標や探究活動の目的を見出させ、主体的な活動に繋げる。

## “本気”のための

### 「まとめ・振り返り」過程の工夫

#### ①自分について振り返る

自分の学習方法や態度について自己評価させる。特に「実行」に移したことによる成果とその要因、今後の課題について考えさせることにより、自分の学び方のよさや課題を自覚させる。

#### ②対象について振り返る

それまでの学習活動についてポートフォリオを用いて振り返り、分かったことや対象に対する思い等を記述させ、対象そのものの価値や自分の学びの価値、地域のよさを自覚させる。また、今後取り組みたいことや、やらなければならないことも記述させ、次の探究活動への意欲を高める。

#### ③単元前後を比較させる

単元の前後に記述した対象に関する認識や思い等を比較させることにより、単元前と比べた自分の知識面や情意面の伸びを視覚的に実感させるとともに、自らの考えの変容や成長を自覚させる。

#### ④外部評価を取り入れる

保護者やゲストティーチャー等で単元の学習にかかわった校内外の方から直接、もしくはビデオや手紙などで学習活動についての評価をしてもらうことで、自らの良い点や改善点に気付かせ、自信を深めさせたり、単元での学びの価値を自覚させたりする。

## 見方・考え方を生かす指導の工夫（生活科）

生活科における「深い学び」とは、「気づきの質の高まり」と捉えることができる。

- ①無自覚なものが自覚化された状態
- ②バラバラな一つ一つの気づきが繋がって関連付いた状態
- ③対象と自分の関係、あるいは対象を通して自分のことを捉えた状態

以上の三つの姿を、児童が学びを深めた姿として授業を行った。




### ①対象と繋ぐ工夫

対象への「気づき」は児童の主体的な活動によって生まれた対象に対する一人一人の認識であり、次の自発的な活動を誘発するものとなる。身近な生活における対象を自分とのかかわりで理解させるために、活動を繰り返したり、対象を自ら選択したりすることで、対象とのかかわりが深まり、一人一人が思いや願いをもつことに繋がると考えた。

A 体験する	見る 聞く 触れる 作る 探す 育てる 遊ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の近くの公園に出かける。</li> <li>・公共施設を実際に利用する。</li> </ul>
B 自己決定させる	複数の学習対象の中から一つ選択させることで愛着をもたせ、対象を深く認識することに繋げる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋見付けで分類された秋のものの中から一つ選択し、「〇〇はかせ」として対象を絞ることで、愛着をもたせたり、没入させて対象と深くかわらせたりする。</li> </ul>
C 繰り返しかかわる	何度も対象とかかわりながら表現し考えることを繰り返すことで、無自覚だったものを自覚して様々な事象や対象を関連付けて考えることができる。
D 他者と共にかかわる	他者と対象に協動的にかかわることで、一人では気付かなかったことに気付いたり、気づきが関連付けられたりする。

### ②学習活動の工夫

低学年の児童の気づきは、情緒的、無自覚的、断片的という特徴をもっている。思いや願いを実現していく過程の中で、学習活動を工夫することで、一つ一つの気づきの質を高められるようにした。

A 思考する	(1) 分析的思考を育む <b>解釈・把握</b>	比較する 見方を変える 選ぶ 見立てる 分類する 関連付ける 多面的に見る <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園で見つけたどんぐりと学校で見つけたどんぐりを比較する。</li> <li>・どんぐりを自分の家族の姿に見立てる。</li> <li>・〇〇について伝えたい事を分類する。</li> </ul> 
	(2) 創造的思考を育む <b>新たに創り出す</b>	試行錯誤する 予測する 工夫する 見通す 生活に生かす <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく回るどんぐりコマにするために試行錯誤する。</li> <li>・軸を長くすると、コマがよく回ると予測する。</li> </ul> 
B 表現する	言葉 絵 紙芝居 動作化 歌 劇化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の季節の変化を劇にする。</li> <li>・〇〇のいいところを紙芝居にする</li> </ul> 	

## 独創スピリッツを引き出す工夫（総合）

総合的な学習の時間における深い学びの実現のためには、学びのプロセスを意識することが求められている。その学びのプロセスにおいて独創スピリッツを引き出すことが重要であると考え、授業を行った。

### 【課題発見力を引き出す工夫】

体験活動でもった気づきや疑問を比較・分類させる	体験活動でもった気づきや疑問を書き出し、比較・分類させることにより、自分達の関心や疑問を焦点化したり明確にしたりする。
現状を他と比較する視点で見つめさせる	現状を他と比較し、違いに着目させることにより、明確な課題を発見することができる。 ○時間軸で比較 「過去はどうだったのか。」「未来はどう在るべきなのか。」等 ○空間軸で比較 「他の地域ではどうなのか。」等 ○自分自身のイメージや知識と比較 「なぜ～なのか。」「解決したい。」「何とかしたい。」等 ○自分の考えと他の人の考えを比較 「どう判断すればよいのか。」等
追求の内容と方法を明確にさせる	予想や仮説を考え、それを確かめるために必要なことを考えたり、何を何のためにどのようにして調べるのかを考えたりする。

### 【追求力を引き出す工夫】

対象に繰り返しかかわらせ、気づきを表現させる	具体的な体験活動を通して対象に繰り返しかかわらせ、そこでもった気づきを話し合いや交流などで表現させる。
多様な方法で多様な情報を収集させる	文献やインタビューから言語化した情報、観察や実験で数値化した情報、体験活動での感覚的な情報など、多様な情報を様々な方法で収集させる。
思考スキルを用いて情報を整理・分析させる	収集した情報は、それ自体はつながりのない個別なものである。それらを比較・分類・関連付けなどして整理・分析させることにより、知識のネットワーク化を図る。また、対象の価値や人々の思い、願いに気付かせるとともに、そこから主張や価値判断につなげる。

### 【評価力を引き出す工夫】

振り返らせる	学習方法や態度	自分の学習方法や態度について自己評価させる。特に「実行」に移したことによる成果とその要因、今後の課題について考えさせることにより、自分の学び方のよさや課題を自覚させる。このことにより、次単元や次学年、他教科の学習への教訓とすることができる。
	対象	それまでの学習活動についてポートフォリオを用いて振り返り、分かったことや対象に対する思い等を記述させ、対象そのものの価値や自分の学びの価値、地域のよさを自覚させる。また、今後取り組みたいことややらなければならないことも記述させ、新たな課題に気付かせる。
単元前後を比較させる		単元の前後に記述した対象に関する認識や思い等を比較させることにより、自らの考えの変容や成長を自覚させる。
外部評価を取り入れる		ゲストティーチャー等で単元の学習にかかわった校内外の方から直接、もしくはビデオや手紙などで学習活動についての評価をしてもらうことで、単元での学びの価値を自覚させる。